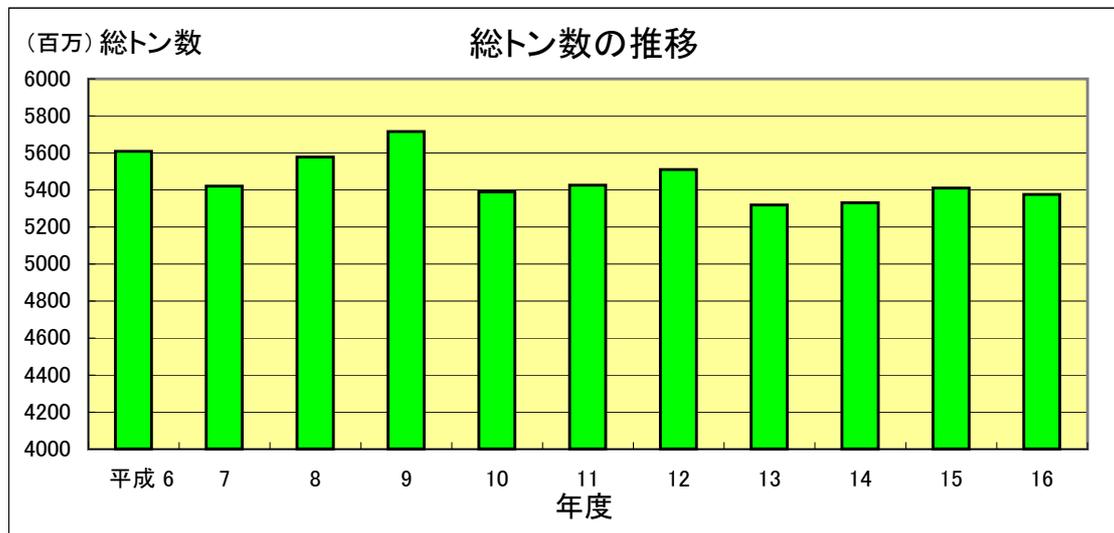
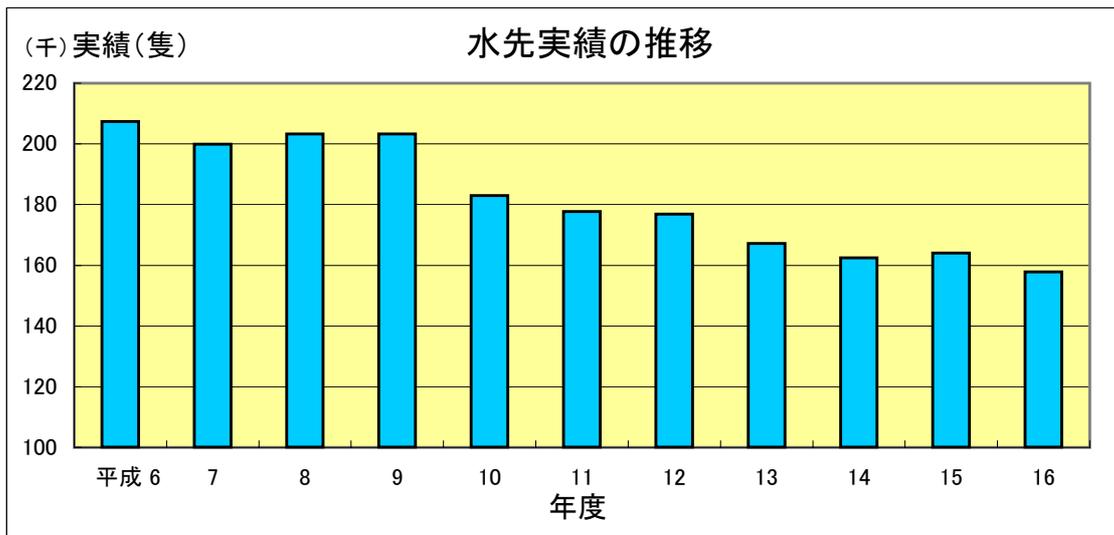


水先制度の現況(補足)

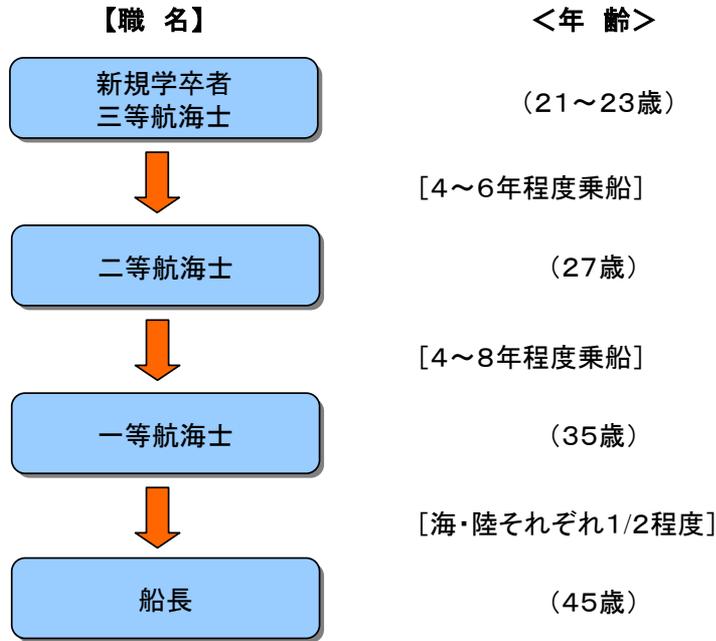
水先実績と総トン数の推移

年度	水先実績(隻)	合計総トン数
平成 6	207,342	5,608,636,746
7	199,925	5,421,109,126
8	203,283	5,577,883,933
9	203,238	5,715,386,204
10	182,935	5,389,083,690
11	177,733	5,426,273,466
12	176,912	5,510,439,282
13	167,173	5,319,625,935
14	162,414	5,330,772,183
15	163,986	5,410,425,265
16	157,859	5,376,713,412
対6年度比較	24% 減	4% 減

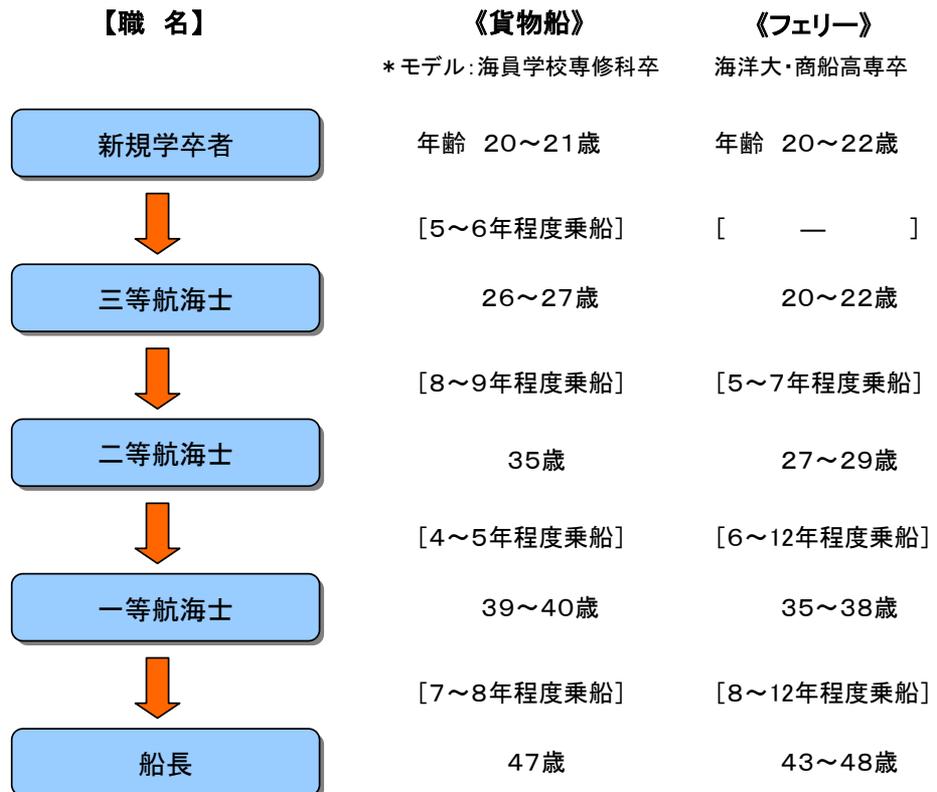


船員のキャリアパスの例

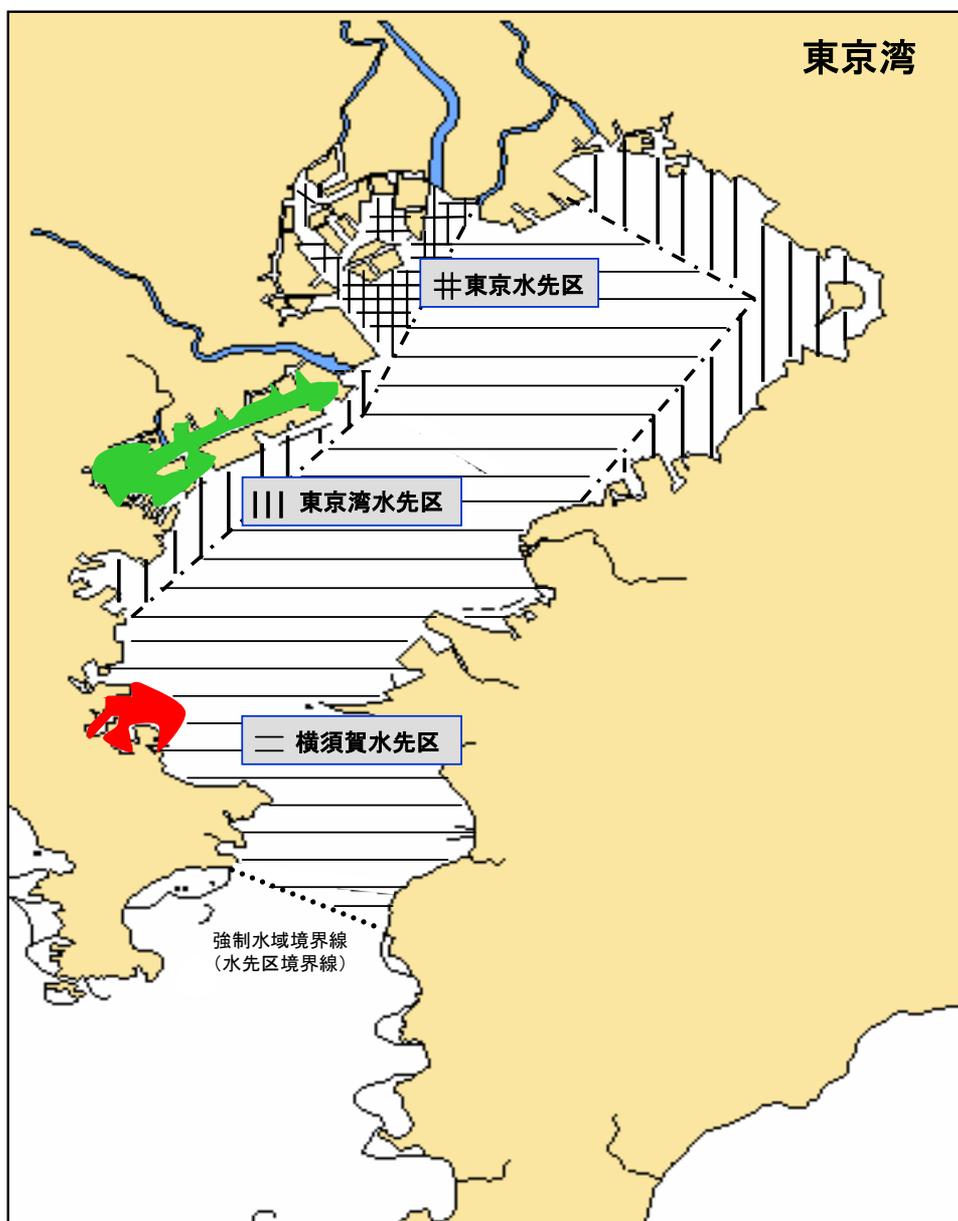
外航船員



内航船員 (3,000GT 以上)



水先区と強制水域の現状



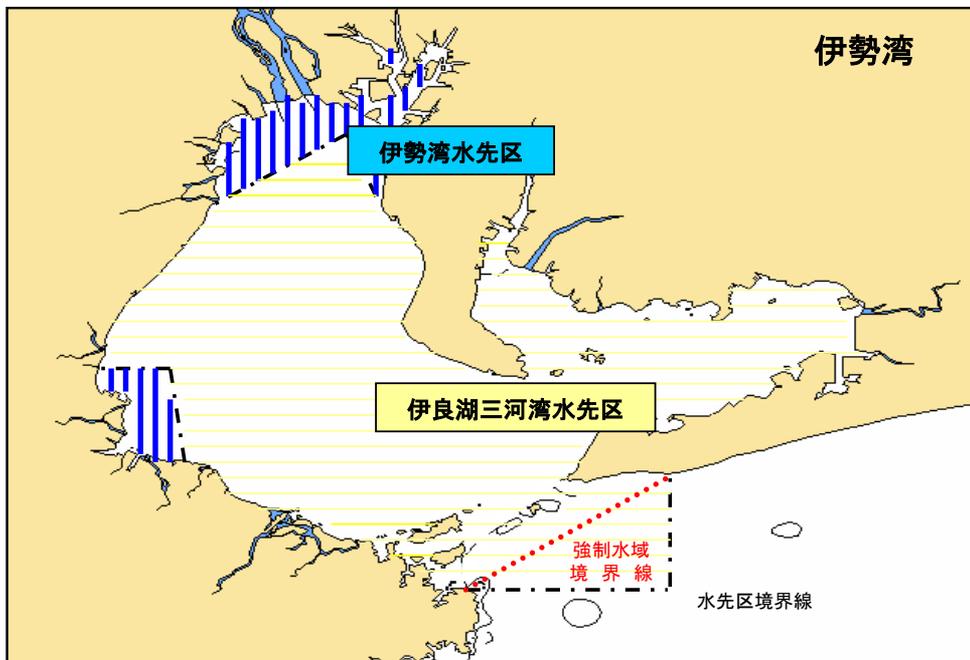
※ イメージ図である。

■ ... 3百トン強制(横須賀区)

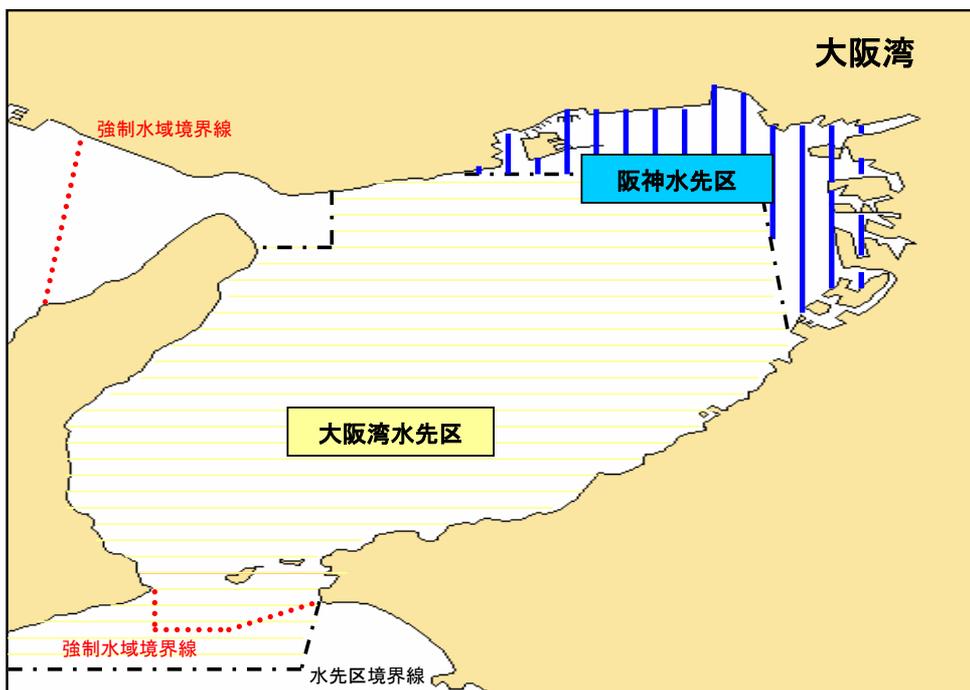
■ ... 3千トン強制(横浜川崎区)

・ 上記以外は1万トン強制(東京湾区)

水先区と強制水域の現状



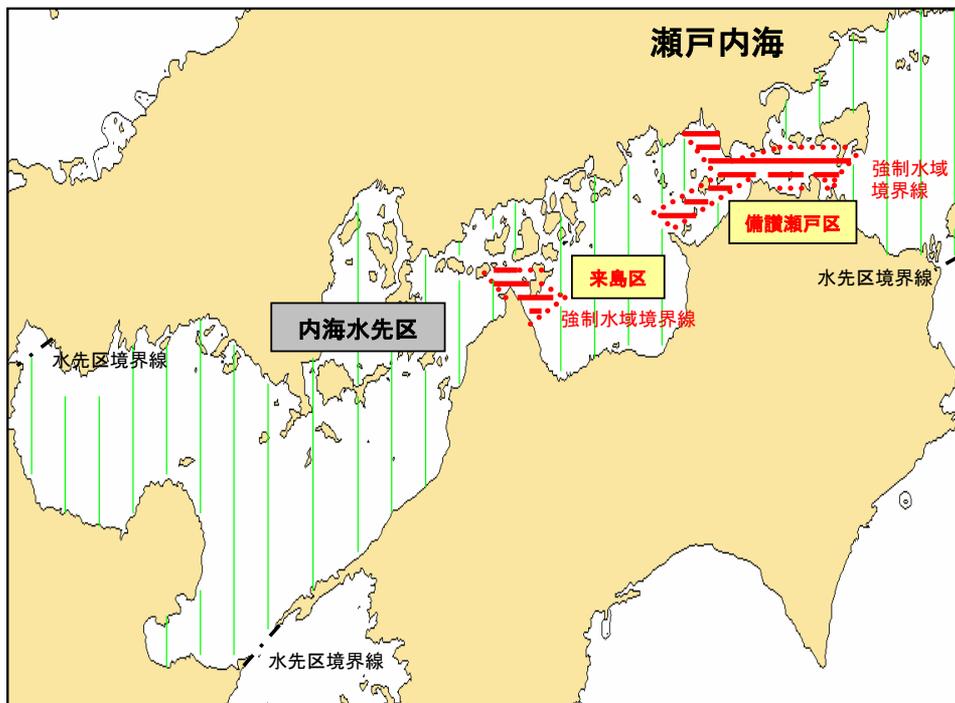
※ 強制水域は1万トン強制(伊勢三河湾区)



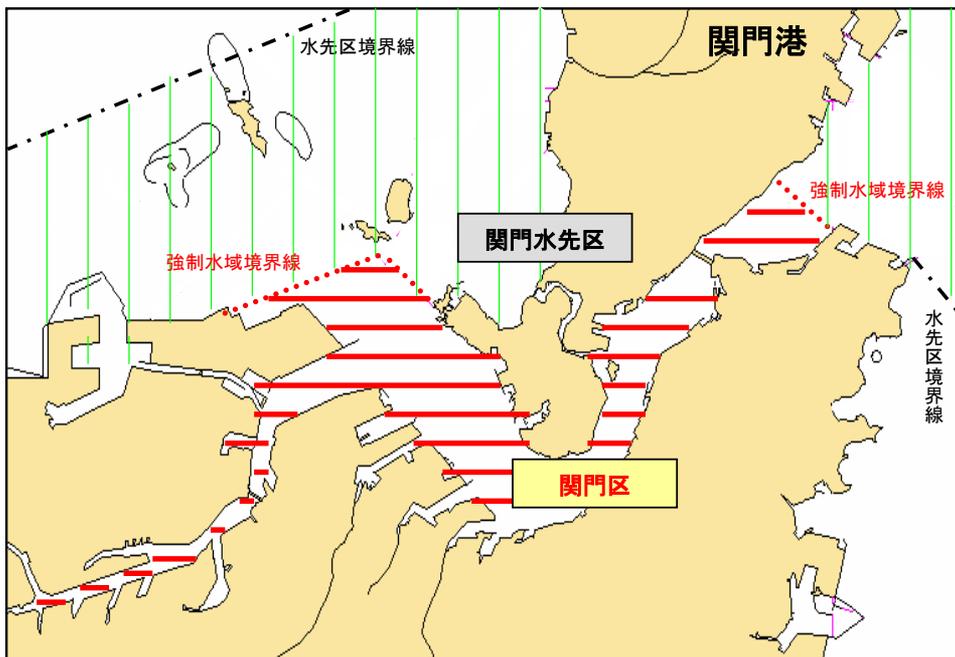
※ 強制水域は1万トン強制(大阪湾区)

※ イメージ図である。

水先区と強制水域の現状



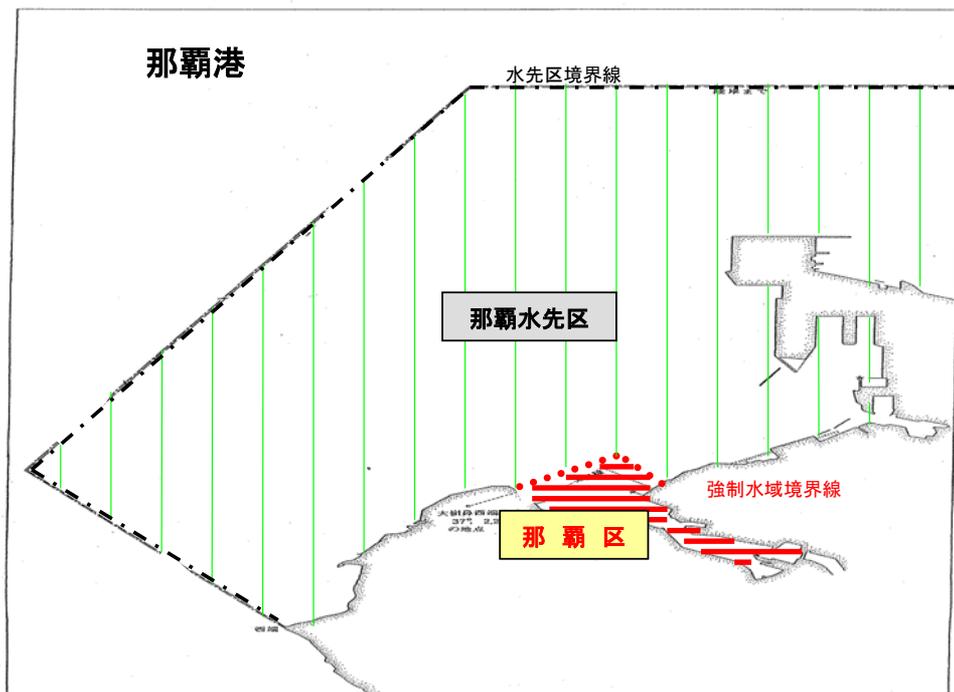
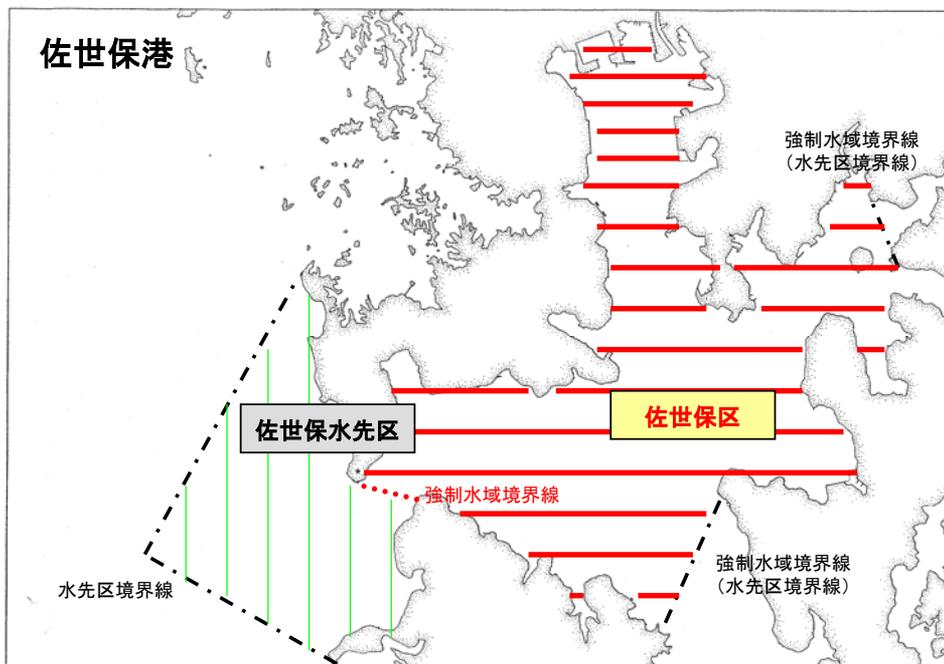
※ 強制水域は1万トン強制(備讃瀬戸区、来島区)



※ 強制水域は、○通峡船 :1万トン強制
 ○出入港船 :3千トン強制
 ○危険物積載の入出港船、一部狭水道部分 :3百トン強制

※ イメージ図である。

水先区と強制水域の現状



※ イメージ図である。

最近の水先料金の見直し状況について

近年において、水先料金については、平成15年、16年及び本年4月の3回、きょう導距離の見直し、経費の見直し等による料金の合理化を図るため、改定。

例えば横浜港では、17%程度の料金低減を図ったところ。

(例1) 横浜港南本牧埠頭コンテナバース入港の場合 (20マイル)

* モデル船型 総トン数50,000G/T 喫水10M

〈見直し前〉 279,673円

〈見直し後〉 231,122円 Δ 17.4%

(例2) 東京港大井埠頭コンテナバース入港の場合 (32マイル)

* モデル船型 総トン数50,000G/T 喫水10M

〈見直し前〉 369,473円

〈見直し後〉 321,414円 Δ 13%